浄土寺だより

浄土真宗本願寺派
石見真宗精舎

ともしび

平成31年4月号　Vol61　発行日 190412

〒699－4621
島根県邑智郡美郷町粕渕354
浄土寺　門信徒会
TEL　0855－75－0064　FAX　0855－75－0264

月々のことば

五月十九日（日）　降誕会法要
「ごめんね」と
幼子が草を抜いている

六月十九日（水）　四季講
ささやかな願いというが
なかなか　どうしてどうして

七月十六日（火）　安居会
泥田に蓮の花が咲く
濁世に念仏の花が開く

八月二十日（火）　盆法座
戦没者の願いは
再び戦没者を
生み出さないこと

九月二十三日（月）秋彼岸法座
亡き人のおかげで
アミダさまの前に座っている

十月十六日（水）芋法事
報恩講のご案内
ずっとお待ちの親鸞さま

納骨堂入所募集
並びに　合同墓（合祀墓）希望者
募集します

核家族化という家族制度の変化や少子化の進化で、お墓を守る継承者がいない環境にある方々が増えつつあります。このような悩みを解決する手段として、継承者に代わり、お寺でお預かりして永代に維持、管理をしていこうという考えで昨年、合同墓を増設しました。

今年まで少しずつですが希望される方が増えてきています。納骨堂の個別納骨壇は昨年は19基の空きがありましたが、4月現在76基中6基の空きとなりました。

あと少し余裕がございますのでご検討してみて下さい。納骨堂は門信徒の方々にご利用頂くことによって、浄土寺の護持とご法義の繁盛に大きく貢献するものであります。今後とも皆様のご協力を賜り、お念仏の絆を深めていただくことを念願し、ご案内申し上げる次第です。

合同納骨所は一体（二壺）十万円、合祀の場合五万円と設定しております。ご希望がありますればお気軽にお寺までお尋ねください。

リビング法話

「和を以て貴しとなす」

住職　西原　真公

二〇一九年四月一日、新元号が発表されました。五月一日からは『令和元年』となります。私はお参り中で、お勤めを終えると、ご家族の方がテレビを付け、発表をドキドキしながら待っていました。三月頃からは様々な情報番組で予想をしていましたが、全く違う元号となり、多少違和感はありましたが、すぐに慣れ段々親しみやすくなったりもしました。後日、新聞では約七割の方が『令和』に好感を持っていると応えていました。

特に「和」という文字には私たち昭和世代にとって、とても親しみのある字です。「和」は平和の和でもありますし、和（なごむ）とも読みます。どことなく「和やかに仲良くしよう」という意味が込められているようにも感じています。

日本人は「和」という字に対して昔から何かしらの好意があるのかもしれません。それは今から一四〇〇年前、聖徳太子によって十七条の憲法が制定され、その第一条は「以和爲貴（和を以て貴しとなす）」とあります。十七の憲法は今日ある憲法ではなく、社則や校則に近い組織の規律でありました。「『書紀』の訓（よ）み方を記した最古の写本である岩崎本の『書紀』（平安時代中期の書写）では「和を以て貴しとなす」の「和」は「わ」と読まずにこの個所を「和（やわら）ぐを以（も）て…」と訓んでいます。そのあと「忤（さか）ふることを無きを宗（むね）とせよ。…」と続きます。

意味は私たちが、みんな心をおだやかに持ち、相手の気持ちを考え、人と人とのつながりをよくしていくことが、もっとも大切である、ということのようです。

この後に続けて、「忤うること無きを宗とせよ。」とあります。「相手に逆らうことなく争いごとをしないことが大切である。」ということと思います。

親鸞聖人は聖徳太子を「和国の教主（日本のお釈迦さま）」と讃え、深い尊崇の念をささげています。本堂の右余間に聖徳太子のご影像が安置されてあることからもわかります。聖徳太子が仏教を中心とした国作りを進めてくださったので現在の仏教があるのです。

私たちは、誰でも、みんなと仲違（たが）いせず、仲良く生きていきたいと願っています。しかし、同時に、本当の意味でみんなと「和」して、仲良く生きることは難しいものです。それはどうしてか。冒頭の言葉に続いて聖徳太子は、次のように述べています。

人皆（みな）党（たむら）有（あ）り。また達（さと）る者（ひと）少（すく）なし。

意味は「人は誰しも自分に気の合う仲間を作りたがるものだ。そして同時に、ものごとの道理を良くわかっている人は少ないものだ。」ここで聖徳太子は、自分の身の回りについてのことも、その中にいる自分自身についてのことも、よくわからないままで、自分に気の合う仲間を作ろうとすることが、みんなと仲良くできない理由なのだと言っています。私たちは一人では決して生きられませんから、友だちの大切さは、誰もが感じていることだと思います。一緒に楽しく過ごしたり、時には悩みを打ち明けたりする中で、一生の友を得るような大切な出会いも経験します。しかし、私たちは時として、せっかく友だちや仲間と一緒にいても、私が第一で、次に周りや友達との関係を考えてしまいます。

そこには、常に自分中心の、相手と「和」してゆこうとしない、どこまでも「忤」らおうとする思いが渦巻いています。譬えそのことが分かったとしてもやめることができない私がいるのです。

どこまでも自分中心の楽しさだけを求めようとするあり方が照らし出され、知らされた時に、はじめて、「みんなと共に生きている」ことの尊さが知らされるのだ、そのことが本当の「和」らかな関係を築いてゆくのだ、と太子は言っているのかもしれません。自分を中心に置いた上で、他の人のありようにばかり目を向ける私たちの心は、なかなかに手ごわいものですが、日常のさまざまなつながりの中で知らされる、自分のあり方を深く照らし出すはたらきの大切さと、「共に生きよう」といういのちの願いのあたたかさを感じつつ、和らかな心で歩んでゆきたいものです。

これから新しい『令和』の時代が始まります。心穏やかに和らぎ、争うことが限り少なく、生きとし生けるものすべてが繋がっていると感じられる時代にしたいですね。

合掌

お墓の始まり

お墓とは、亡くなった方の遺骨を納め、家族や親族、生前に関わりのあった方が故人を弔うためのものです。命日やお盆、お彼岸にお墓参りをする方も多いと思います。このように私たちの生活の一部となっているお墓ですが、そもそもお墓がなぜ建てられるようになったのか？

お墓を建てる理由は大きく分けて三つあります。

①故人が忘れ去られないようにするため

故人のお墓を建てることで、お盆や命日などにお墓参りをする習慣ができ、故人を定期的に思い出すことができる。

②遺族の想いを形にするため

遺族にとって大切な人が亡くなったという現実を受け入れる手助けをする。

③ご先祖様を敬うため

今の私たちが生きていられるのは、ご先祖様の存在があったからです。そのため、ご先祖様への感謝を忘れてはいけませんが、常日頃からご先祖様への感謝を持つことは容易なことではありません。そこで、我々はお墓を建て、お盆などを利用してご先祖様に感謝の気持ちを伝えようとしました。

埋葬方法は、昔は土葬でしたが現在日本では火葬が主流です。最近では海にお骨を捲く散骨（違法になる可能性がある）や、人工衛星に乗せて宇宙空間に埋葬する宇宙葬というのも出てきました。

では、なぜ日本では石のお墓を建てる慣習が生まれたのか？

古いお墓と聞くと古墳やピラミッドを思い浮かべる方もいるかもしれませんが、こうしたお墓は地位の高い人や権力者のものです。日本のお墓の歴史は古く、縄文時代にはすでに埋葬の文化があったことが確認されています。しかし、当時はまだ埋葬した故人の上にお墓を建てる文化はありませんでした。

古墳時代には、権力者のお墓である古墳が建てられました（仁徳天皇の前方後円墳が有名）。江戸時代中期になると、ようやく碑石を用いたお墓が登場しました。しかし、当時のお墓はあまりにも高価であったため、やはり一部の権力者や富裕層の遺族などが建てるものでした。

現在のように誰でも気兼ねなくお墓を立てられるようになったのは、昭和30年代の高度経済成長期以降です。墓地が整備され、故人やご先祖のためにお墓を建てることが慣習化したようです。

ところで　浄土真宗では、お墓は故人や先祖を慰め成仏を願うのではなく、お浄土へ旅立った故人を偲びながら仏縁を結ぶ場所です。お墓は故人の魂や霊が宿る場所ではありません。

一日研修旅行

十一月二十八日、七名の参加で、出雲市大社町の乗光寺様の報恩講に参拝しました。当日は住職様や坊守様の温かい歓迎を受けながら、まごころこもったお斎をいただき、ゆっくりお聴聞できることを喜び、最良のひとときを過ごさせていただきました。初の出雲方面の報恩講であり、石見とは少し雰囲気の違った報恩講でしたが、乗光寺様は組織がシッカリされており、仏婦の方や仏壮の方々が中心にお世話をされておられました。何とも頼もしく、アットホームなお寺・法要でした。来年もどこかの報恩講にお参りに行きたいと思います。

平成三十一年度浄土寺聞信仏教婦人会総会

二月二十四日（日）午前十時より浄土寺聞信仏教婦人会の総会が開催されました。真宗宗歌斉唱のもと厳かに開扉となり、十二礼で始まり、予決算、活動方針を決めて、ダーナ献金に続き、邑南町戸河内の毛利孔晶先生よりご法話をしていただき、尊いご縁にあいました。

今回もバイキング形式での懇親会を行いました。みなさん思い思いの料理を手に取り、たくさん頂きました。後半は坊守の昔話の朗読、前坊守のクイズなど大いに盛り上がりました。

おさそい

平成31年4月20日晩席より21日日中まで

浄土寺総永代経法要

講師　桜江町　長玄寺

岡本広樹　師

二十日　晩七時半　永代経逮夜法要　法話　一席

二十一日　朝十時　永代経晨朝法要　門信徒会総会　法話　一席

十二時より　おとき　随時

二十一日　昼一時　永代経納骨堂法要　納骨堂・本堂　法話　前席

二時半　永代経開闡法要　法話　後席

初参式　五月十九日（日）参加者募集！

宗祖降誕会法要（親鸞さまのお誕生お祝い法座）に当たり浄土寺本堂に於いて浄土寺聞信仏教婦人会の主催で、恒例の赤ちゃんから二歳までの初参式を行います。昨年の一月以降にお生まれになった赤ちゃんは是非とも仏縁に会う初参式をお受けになるよう、お勧め致します。当日は赤ちゃんの手形足形の記録採取や記念品を贈ります。

浄土寺の二〇一九年度の主な行事

一月・元旦修正会（一日午前）年始
　御正忌（十六日）十五日晩大逮夜
二月・初法座（十六日）仏教入門講座
　仏婦総会（二十四日）毛利孔晶師
三月・春彼岸法座（二十一日）住職
四月・花まつり子ども会（七日）
・永代経法要（二十日～二十一日）
　講師　桜江町　長玄寺　岡本広樹師
・門信徒総会　二十一日　十時
五月・降誕会法座（十九日）・初参式
六月・四季講（十九日）藤丸智雄先生
七月・安居会（十六日）川本義昭師
八月・盆法座（二十日）仏教入門講座
九月・秋彼岸（二十三日）未定
　前々坊守祥月命日・前住職七回忌法要
十月・芋法事（十六日）仏婦例会も兼ねる
十一月　報恩講（二十日晩～二十一日）
　仏婦報恩講（二十一日午前）
　講師　広島　渡邊幸司師
十二月　歳末法座（十六日）仏教入門講座
　大晦日（三十一日）除夜の鐘つき
　十一時半から

除夜の鐘・夜桜ライトアップ　写真

今年は暖冬いうこともあり、三月二十二日には桜が咲き始めました。数年前から浄土寺でも桜のライトアップをしており、毎年たくさんの方が夜桜を見に来られます。夜十時まで点灯していますので、今回見逃した方も次回は是非ご覧下さい。今年の夜桜は浄土寺のフェイスブックに載せています。こちらもご覧頂き「いいね！」をクリックしてください！

昨年十二月三十一日午後十一時半より除夜の鐘つきを行いました。境内に二五〇本の竹灯籠を灯し、本堂で温かい「甘酒」を振る舞いました。

浄土寺facebookのお知らせ

インターネットでフェイスブックを始めました。毎月の法座や子ども会の案内をしています。「浄土真宗本願寺派　島根　浄土寺」で検索してみて下さい。

http://www.facebook.com/jodoji

是非『いいね』をクリックして下さい

現在、HPも作成中。近日中に公開予定！

▽▲▽▲▽　お知らせ　▲▽▲▽▲

永代経懇志進納の方々

【平成三十一年四月一日現在】

（平成三十年十一月から平成三十一年四月まで）

慈恵院釋誓妙（俗名井上恵美子）施主　高畑　井上俊宏　殿
慈徳院釋常寿（俗名景山寿徳）　施主　野間　景山サチコ　殿
慈秀院釋浄慧（俗名原田秀子）施主　大阪　堀井智子　殿

忝なくお受けし教化の資とさせて戴きます

永代経懇志とは故人が今生でお念仏に遇い、往生の素懷を遂げた証（しるし）であり、この境涯での形見を上置きとして遺（のこ）す意味であります。